

市長記者会見記録

日時：2015年12月15日（火）午後2時00分～午後2時25分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：市政一般

<内容>

（小児医療費助成の対象拡大について）

司会： ただいまより、定例の市長記者会見を始めさせていただきます。本日は市政一般となっております。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

市長： よろしくお願ひします。

幹事社： じゃ、幹事社から3つほどお聞きできればと思いますので、まずは市政に関することなんですが、定例会の中で、小児医療費助成に関して、市長、対象を再来年4月に小学6年生まで公約どおり拡大する際に、一部窓口での自己負担を検討するという案を一応提示されていると思うんですけども、これに対して、ほとんどの会派から反対だという声が相次いだと思うんですけども、本会議で。これに対して、どのように受けとめているかということと、あとは窓口負担が考えられない場合はどうなるのかと、対象拡大についてはどうなっていくのかという、そのあたりをちょっと。

市長： 単純に反対ということでは私はないのではないかなと、いろんな議論をさせていただいておりますけれども、思っております。ですから、今後、いろんなご議論があるんでしょから、市民の皆さんの、私が捉えている反応も様々でございまして、まだ対象年齢、全部が全部なのかとか、いろんなことをまだ内容を示しておりませんので、しっかりとお示ししたときから、さらにご議論が沸いてくるのではないかなと思っておりますが、一部負担金の導入の考え方というのは、今の段階では、いろんなご議論があるのではないかなと思っておりますけれども。

幹事社： これは市長の公約では、無料化ということに関して、改めてになってしまいうんですけど、公約と違うじゃないかという厳しい意見も一方であると思うんですけど、それについてはどのように……。

市長： そうですね。仮にしっかりと自己負担をいただくということになれば、私の言っていたこととは明らかに違うこととなりますので、それについては、しっかりと

と説明責任を果たしていく必要があると思っています。

幹事社： 説明責任というのは、もうちょっと言うと、どういうふうな説明をしていこうという。

市長： それこそメディアの皆さんはじめ、しっかりと市民に周知していくということもそうですし、市の考え方というのをちゃんと伝えていく必要があるだろうなと思っています。いずれにしても、小学校6年生までなるべく早く医療費助成をという声は高いと引き続き私も思っておりますし、これまでの議会でもお話ししたとおり、最重要課題の1つだと思っているので、なるべく早い時期にということをお願いしてきたので、29年度からの取組はしていきたいなと思っています。

(川崎青年会議所による市長のマニフェスト検証会について)

幹事社： わかりました。それと、別の話なんですけど、土曜日のマニフェスト検証会ですか、高校生との議論で市長も結構満足な議論ができたという感想を述べられたんですが、一方で、評価研究委員会のほうの前段であったと思うんですが、100点満点で48点、これは任期折り返しとしては、合格点ということで、研究委員会では評価をしていますけれども、この評価についてどう受けとめているのかということと、あと、個々のテーマで進捗率によって、色々差がついていたと思うんですけど、全般の評価をどのように受けとめているのかというのを改めて聞かせてください。

市長： その点数については、任期1年9カ月のところを評価していただいて、おおむね合格点だと言っていただきましたけれども、しかし、ご指摘はいただいたとおり、進んでいるところと進んでないところが散見されるので、進んでないところをやはりこれからの2年でしっかりとやっていく必要があると思いますし、それから、指摘をいただいた中でも、例えばマニフェストの記載そのものが曖昧であったために、どこに目標値を持っていくのかというのがなかなか見えないのではないかという話も言われました。これも確かにそのとおりだと思っております、マニフェストに記載していなかったけれども、こういうふうな目標数値を新たに設定し、こういうふうに取り組んで、結果をこういうふうに出していきますということを追加として示していく必要はあるのかなと思っていますので、追加記載については、またしっかりとそのことは説明をしていかなくちゃいけないと思います。何よりもやっぱりマニフェストは政策を前に進めていくツールですから、そのツールをどうやってうまく使っていかということだと思います。

幹事社： 先ほどのお答えで、追加記載についても、目標値とかを改めて出してい

きたいというのは、例えば14テーマがある中で、どの辺でその追加……。

市長： 例えばご指摘を私、いただいたのは、健康寿命みたいなものを延伸するという形で記載してあるけれども、どのようにそれをやるのかというご指摘はいただきました。その物差しというものをどうしていくのかといったことについて、なかなかやはり健康寿命を延ばしていくといっても、結果が出るのは、相当長いピリオドがかかるものなので、だからといって何もしないかということではないですよ。そこをなるべくわかりやすい数値というものをどのようにか設定して、そして、進捗を示していくということが多分必要なんだろうと思います。ですから、それについては、どういうふうなやり方があるのかというのを、私なりにしっかり勉強しないといけないと思っています。

(軽減税率について)

幹事社： わかりました。あと、市政とは直接関連がないんですけども、国政についてなんですが、自公両党で生鮮食品、加工食品への軽減税率ですか、導入を合意したというのはおとといあったんですけど、本日の閣議後会見のほうで、高市総務大臣が、地方税の減収が3,000億程度に上るという見通しを示したそうなんですけれども、社会保障の安定財源、地方に振り分けられる分というのは結構大事な部分だと思うんですけども、今回の軽減税率の議論と結論というんでしょうかね、また、今後の不安材料をどのように感じておられるのか、そのあたりを聞かせてください。

市長： これまでもこの消費税のみならず、法人市民税の話だとか、それぞれの、いわゆる地方にとっての非常に重要な財源の話というのが国政によって大きく影響しております。ですので、そういう意味では、私たちが市民サービスの一番最前線にあって、サービスを提供しなければならない立場なので、その財源というものはしっかりと確保していただかないと、市民、ひいては国民生活に大きな影響を及ぼすと思いますので、しっかりと財源確保というものをさせていただきたいなどは思っております。

幹事社： この生鮮食品、加工食品の軽減税率、1兆円ですかね、で合意したという点については、どんなふうにお考えですか。それは妥当な線かなと……。

市長： 妥当なのかどうなのかというのは、ちょっとあれですけど。

幹事社： どのように受けとめておられるんですか。

市長： 難しいところですね。何がいいかというと、何というか、どこに線引きするのがいいのかとかいう話というのは、ちょっと私もどこがということは、個人の好

みみtainな話になっちゃう部分もあるので、そこはちょっと控えたいと思いますが。

幹事社： わかりました。

（相模原市の児童相談所における事件について）

幹事社： すいません、昨日、相模原市の児童相談所で児童を全裸にして、身体調査をしたという事例がありましたけれども、そのことについてどうお感じになったかということと、それから、市内の3カ所ですか、児童相談所があると思うんですけども、こちらについて、何か注意喚起をしたとか、何か対策をされたかどうかなどをお伺いできればと思うんですが。

市長： 私も報道の非常に断片的な話しか見てないので、詳しくは申し上げることができないんですが、ただ、子どもを守るべき施設の場所、あるいは職員が逆に子どもの権利を侵害するだとか、そういった子どもを守るとは真反対の行為に及んだとすれば、大変遺憾だと思っていますし、川崎市においても、これまでもいろんなケースがありましたので、そのたびに注意喚起、あるいは指導ということはしてきておりますので、引き続いて、緊張感を持ってやっていかなければならないとは思っています。

（今年の漢字について）

幹事社： もう一点なんですけれども、やわらかいお話なんですけれども、今日、清水寺のほうで、今年の漢字が14時に発表されると。何に決まったかまだ連絡は来てないんですけれども、市長がお考えになる今年の漢字1文字、何になりますか。

市長： すいません、考えてもなかったですけどもね。ちょっとなかなか出てこないですね。市民の中でも、今年はいい話もたくさんあったんですけども、一方で、本当に川崎市民だけではなく、全国を揺るがすような安心にかかわる事件というのがたくさんありました。そういった意味では、安心ということをもう一度、市民の安全・安心を守るとというのが私たちにとって最も一番大事な仕事でありますので、そういった、ある意味、安心について、今年は何ものすごく考えさせることがありましたね。安心というか、安全ということがまず第一義でありますけれども、安全を確保した上で、しっかりと安全・安心につなげられるようなことに思いを特に深くした1年であったとは思っております。

幹事社： では、各社、お願いいたします。

（マイナンバー制度について）

記者： マイナンバーの件でお聞きしたいと思います。来年1月から始まる個人番号カードの各自治体で様々な取組というか、市役所に写真機を設置したりですとか、専任の職員を配置したりという実態もあるように聞いておるんですけど、川崎市として、今後どのように、特別な対応を何かお考えではあるのかどうかというところをお聞かせ……。

市長： あ、いえ、すいません、私、まだそこまで詳しい話を聞いていないのであれですけど、ちょっと聞いているのは、コンビニの交付が実際いつぐらいになるのかということについては、なるべく1月の後半ぐらいになれるように準備を進めているという話は聞きましたが、実は私も詳細についてあまり深くまだ聞いていないという状況ですので、いずれにしても、いろんなマイナンバーをめぐる、それこそ安心を揺るがしかねることが、幾つか事象が起きているので、そのようなことがないように慎重に、丁寧にやっていきたいと思っています。

記者： ありがとうございます。

（川崎青年会議所による市長のマニフェスト検証会について）

記者： 先週の土曜日のJ Cの、先ほど幹事社さんからも質問が出ましたが、取組は非常に素晴らしいものであったと思います。高校生があんなに勉強をして、しかも、それに対して市長も一生懸命答えられていて、ああいうことが広がればいいなという具合に思いました。

その前提なんですけれども、聞いていて思った印象はすばらしかったなということとあわせて、例えば財政とか、それから天下りの問題について質問が出たときに、市長が、私の感じでは、現状がどうなっているのかということに対して、真正面からお答えになられてなかったのではないのかなという印象を持ちました。限られた時間ではあるので、そういうこともあり得るかなと思ったんですけれども、市長は伝える広報から伝わる広報ということをあの場でもおっしゃられていたし、受益と負担の見える化ということも口を酸っぱくしておっしゃっていると。であるのであれば、今、財政の状況がどうなっているか、あるいは市長はこれを言うと言われるかもしれないんですけれども、当選後、一般論としての天下りは川崎市にはいないというか、異なると思うというご発言をされています。そういったことも含めて、市民に広く周知をして、理解を求める必要があるのではないかと思うんですけれども、少なくとも、あの現場で高校生たちはそういうことを理解されていないような感じを受けました。

今後、先ほど小児医療費のところ、これまでの公約とは若干異なるので、それは

しっかり説明していきたいという話をされていたので、例えば天下りの問題、それから、2点に絞りますけれども、財政の問題、このことについて、市民にどういう形で説明をしていかれるか、付言するならば、大変残念ながら、一緒に公表されたアンケートでは、全国紙、地方紙、それからテレビが市政の情報を得るツールとしては20%台になっていて、最も読まれているものが市の広報で、大体これが45%ぐらいだったと思います。なので、一般に広くリーチするためには、市政の広報にまさにそういうあまり都合がよくない話も含めて、わかりやすく丁寧に説明していく必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

市長： 財政の問題というのは、非常に難しい話で、市民の皆さんに理解していただく必要がものすごくあるんですけれども、これを正確に、かつ易しくお伝えするというのはすごく難しいと思っています。一方で、これまでも財政読本をはじめ、川崎市ではわかりやすい広報に努めていますが、必ずしもそれが読まれているか、あるいは理解されているかといったら、それには大きな課題があると思っています。そういった意味では、これからの広報の中で、しっかりとわかりやすく、正しく財政状況を伝えていくということは、決してこれは今、川崎市が伝えたくない情報じゃなくて、むしろ伝えたい情報だということです。今の財政状況をしっかりとお伝えして、そのことを理解していただいて、行政運営していく、市民サービスがどうなっていくかというのは、むしろ伝えたい情報であることです。そのスタンスに立って、これから伝えていかなくちやいけないなど、伝わるようにしていかなければならないなと思っています。

それから、財政の話もそうですし、天下りの話にしてもそうですが、実はこの話をしっかりと説明するというのは、一定の時間というのは必要だと思います。財政の全体の枠とそれぞれの個別のものというのをしっかりと全体像をお示しするということが大事だと思っていますし、天下りの問題も一緒です。全体のものを見せて、その中で問題は何なのかということをしかりとご理解いただかないと、一部報道で見られるように、断片的な情報では、この天下りの本質の問題というのは伝え切れないのではないかなと思っていますので、そこは、それこそ市の広報が適切なのか、あるいはどういう形がいいのかはわかりませんが、しっかりと市民の皆さんに伝えていくことというのは必要だと思いますし、私が掲げたマニフェストと現実というものと将来の方向性というものをどういうふうに進めていくのかというのは、政治家の私としてしっかりと説明していかなくちやならないなとは思っています。

記者： 今のご発言に尽きると思うんですけれども、それは裏を返せば、今までは

ここで挙げたのは例として財政と天下りの問題ですけれども、それが十分に伝わってなかったというご認識が市長におありになるということでしょうか。

市長： いや、十分に伝わっているかと言われれば、二者択一的な話で言えば伝わっていないだと思いますね。財政状況だとか、あるいは天下りの本質とは一体何なのかということについて、伝わっているかといったら、伝わっていないと思います。そういう意味で、積極的に発信していかなければならないと思っています。繰り返しになりますけれども、財政状況というのは、決して悪いからといって隠すようなものでは絶対ないと、逆なんだという発想です。悪いからこそ市民の人たちに理解をしてもらわなくちゃいけないという発想でやっていかないと、これからの行政運営はできないと思っています。

記者： ちょっと意地悪な質問ですけれども、仮に市内でJ Rが連続立体交差をやって、これが100億円の事業費だとします。市の一般財源の持ち出しというのは、幾らになるのか、市長、おわかりになりますでしょうか。

市長： 連続立体交差の話ですか。

記者： ええ。市内でJ Rが連続立体交差の事業をやったとします。この事業規模が100億円だったとします。市の一般財源からの持ち出しは幾らになるでしょうか。

市長： 一般財源からの持ち出しというのは、全体の量としては、非常に極めて少ないと思います。額で今、幾らというふうに、ごめんなさい、言えませんけれども。

記者： で、それ以外のところは市債を発行するわけですよ。

市長： はい、そうです。

記者： これは正確に言うと、J Rが10%を持って、全体の55%が国の交付金、45%を市費で賄います。その45%のうち90%を市債発行します。けれども、この間の財政収支の見通しでは、この一般財源の4億円の部分だけしか記載されていませんでした。これは普通の市民から見ると、こんなお金で連続立体交差、大型事業ができるのかという具合に思ってしまうという誤解を招きかねないものだと思います。なので、先ほど市長がおっしゃったように、財政状況がよくないんだとするならば、それも含めてちゃんと説明しなきゃならないと思うんですが、こういう説明の、今までの説明の仕方ですら、十分でしょうか。

市長： これも極めて、今の話すら、多分この枠の中でしかわからない話だと思いますよ。だから、よりわかりやすく言っていかなくちゃいけないと思うんですが。

記者： そのとおり。

市長： 今のことだけ話せば、市債の残高を含めて、市債が今どういう状況になる

のかというのは、それはそれでしっかりと説明しています。ですから、トータルを見せないと、多分わからないということなんでしょうけど。ですから、市債の管理はしっかりとやっています。あるいは、一般財源の話はしっかりとやっていますということは、両方しっかりと出しています。これをわかりやすく、わかりやすくって、どういうふうにわかりやすく説明していくかというのは、これからも私たちの課題であると思っています。

記者： 多分、市民の人たちは、先ほど言ったように、僕にもわか勉強でわかったぐらいなので、ここにいる人たちでも……。

市長： ですから、丁寧にわかりやすく説明していかなければならないんじゃないかと申し上げているんです。

記者： 今の段階では、それができていないということでしょうか。

市長： これまでも取り組んできていますが、一生懸命わかりやすくやってきています。そのつもりです。しかし、現実問題として、伝わっているか、伝わっていないかといったら、実際は伝わってないことが多いでしょうと。でも、だからこそ積極的に情報を出して、わかりやすく伝えていかなくちゃいけないということを繰り返し申し上げております。

記者： 今まで伝わってこなかった理由としては何ですかね。

市長： いや、それは、これまでも取り組んできましたけれども、どうやったら本当に伝わるのかということについて、より深く考えて発信していかなければならないと思っています。

記者： 今までの発信の仕方が適切ではなかったということなんじゃないですかね。

市長： あまりにもこの質問とやりとりが僕はちょっと、くだらなくなってきましたか。

記者： いや、そうですか。

市長： 多分、皆さん、ほかの記者さんたち、これ、何かおかしいと思いませんか、今のこのやりとり。

記者： もう一ついいですか。天下りの話も、市の再就職の状況というのは、1年に1回公表されますけれども、過去の部分は、市のホームページから削除されています。これは正しい姿勢ですか。

市長： それは私、初めて知りました。もしそういうことであれば、記載するべきなんだろうと思います。

記者： 今見ても、平成26年度のものと、それから平成25年度から平成26年

度に異動があった人のもののみしか出てないです。例えば……。

市長： どれが適切なのかというのは、私も今、その話を初めて聞きましたので、しっかりと整理したいと思います。

記者： つまり、くだらないと思いませんかと市長はおっしゃられましたけれども、やっぱり市民の人たちに十分届くような、わかるような取組がなされていないことが原因なんじゃないかと思うということを言っているんです。

市長： いや、記者のこれまでの天下りについての新聞報道の書き方というのは、あれじゃ絶対に伝わらないですよ。市民の皆さんに天下りの本質なんて絶対に伝わらないです。

記者： じゃ、市長は、例えば何か別の媒体で、天下りの本質について丁寧にご説明されていますか。

市長： 努めたいと思います。

記者： いや、していますかという話をしているのであって、この後の話を聞いているわけではありません。

市長： これまでも議会の中でも答弁してきたと思いますが、それが市民の皆様には伝わっていないということであれば、政治家としての、先ほど申し上げたとおり、行政でやるか、政治家としての福田紀彦として発信するかは別にして、しっかりとやっていきたいというのは、先ほども申し上げたところです。

記者： わかりました。

（今年の漢字について）

幹事社： じゃあ、すいません、さっきの質問で、追加で、申しわけないですが。

市長： どうぞ。

幹事社： 2015年の世相を1字であらわすというのは、やっぱり安心の安だという話ですよ。

市長： いや、ちょっと、そうですね……。

幹事社： この件では、重いお話で市長、お話しされていたので、ちょっと改めて、全国のは、理由はわからないんですけども、一応そういう文字が選ばれたということなんですけれども、市長も、いろんな残念な事件が、悲惨な事件が色々あったので、そういう言葉を選ばれたという、偶然重なった。

市長： 今年を振り返っている言葉として正しいのか、ちょっと突然だったのであれですけども、安心・安全のことについては思ったということですけども、1つ

の文字にあらわせというと、なかなか難しいですので、ごめんなさい。

司会： ほかはどうでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、市長記者会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

市長： ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355